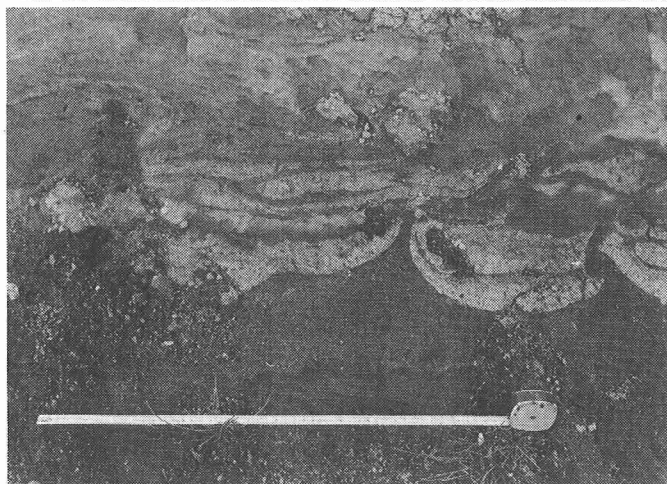
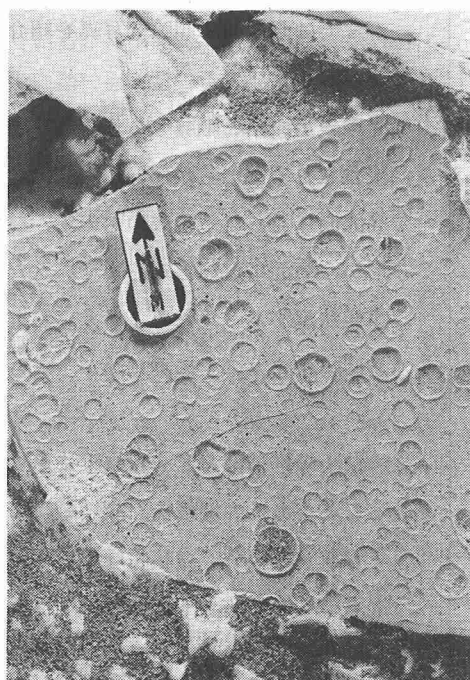


# 廣報

## 東京大学理学部



↑ 雨の化石  
線状土  
氷袋土  
気候の変化を読む

### 目次

表紙の説明	1
理学部を去るにあたって	木村 俊房 2
木村先生を送る—勤君更尽一杯酒—	岡本 和夫 3
感謝をこめていただきます	藤田 宏 4
藤田宏先生を送る	増田 久弥 6
無題	佐藤 良輔 7
佐藤良輔先生を送る	松浦 充宏 8
退官にあたって	稲本 直樹 9
稲本先生の御退官によせて	岡崎 廉治 11
草原の輝き	佐佐木 行美 12
佐佐木先生と共に20年	宮本 健 13
東京大学—学生たちとの青春—	岡田 吉美 14
岡田吉美先生の御退官によせて	伊庭 英夫 15
在職18年を振り返って	飯野 徹雄 16
飯野徹雄先生のご退官によせて	鈴木 秀穂 17
退職にあたって	星 圭介 18
星圭介氏を送る言葉	土居 喜公 18
お別れの御挨拶	長田 美子 19

定年退官に際して	甲斐 正人 20	
宮崎敏夫さんの定年退職を惜んで	酒井 彦一 21	
梅村さんを送るにあたって	武田 弘 21	
石渡綾子さんを送る	小牧 総江子 23	
定年退職に際して	中田 賢次 24	
中田賢次さんを送る	富永 健 25	
原村 寛氏—岩石・鉱物の 分析一筋に30年—	久城 育夫 26	
こんなに狭い理学部の建物	理学部企画委員会建物小委員会 28	
日加協力事業によるトライアムフ	ミュオンチャンネルの完成	永嶺 謙忠 30
ミュオンチャンネル完成式典に出席して	上村 洗 31	
雑感	増田 久弥 32	
小柴昌俊先生の 文化功労賞受賞によせて	折戸 周治 34	
理学部研究ニュース	36	
学部消息	39	

## 表紙の説明

気候の変化は、一般に、時間のかかるフィールドワークによって解読されてきているが、ここでは直観的に明瞭な写真を紹介してみよう。

地表が凍結と融解をくりかえすと、さまざまな模様を描いて礫が斜面を流れおち、山が侵食されてなだらかになる。この現象をソリフラクションという。写真は、乗鞍山頂近い高天原に見られる現成のもので、線状土とよばれる。渡島半島を除く北海道の大部分の地形が、海面に近いところまで、なだらかなのは、ヴュルム氷期に、乗鞍山頂に近いような気候状況があったためと考えられている。これは現成であるが、もし流下中の礫が、たとえばハイマツの上に乗りにかかっているところがあれば、寒冷化を示している可能性もある。

粘土の堆積はもともと水平におこなわれたはずであるが、それが複雑な模様を描いていることがある。堆積後、凍結融解による横圧で皺曲をしたもので、この現象はインボリュージョンという。袋状をなすことが時々あり、氷袋土とよばれる。これは下北半島大間崎近くのもので、上下の地層の関係からヴュルム氷期の形成とされている。

表現は適当でないかもしれないが、雨の化石というものもある。これはベルリン自由大学自然地理学教室の Wolfermann 氏から送られてきたもので、私がとったものではないが、珍しいので紹介しておきたい。場所は東サハラ、チベスチ山地。1966年5月末頃に降った雨で、その時の風向は、穴の形から、北および北東であったと読みとられている。いま完全乾燥の地に雨の化石があれば、かつて若干湿潤であったことを示すが、湿潤地帯で発見されれば、過去の過燥の指標とされる。

地理学教室 鈴木秀夫